2011 年 5 月 23 日

公益財団法人結核予防会からの要請による被災地健康支援報告
（宮城県気仙沼市）

社会医学講座公衆衛生学部門
教授　三浦克之

１．はじめに

公益財団法人結核予防会は岩手、宮城、福島 3 県において被災者の健康支援活動を行っている。結核予防会の長田理事長から本学学長への派遣要請により、公衆衛生学の専門家として 5 月 15-18 日の 4 日間、宮城県気仙沼市における健康支援活動に参加した。派遣チームは私のほか、結核予防会鳥取県支部看護師 1 名、結核予防会東京本部事務職 2 名の計 4 名である。気仙沼市は津波による甚大な被害があったところである（死者約 900 人、行方不明者約 600 人、被災した家屋約 1 万棟）。

主な活動は以下の 3 点であった。

（１）結核予防会気仙沼災害支援第 3 班として気仙沼小学校避難所における被災者の健康支援

（２）気仙沼市内の小規模避難所の巡回による被災者の健康支援と状況視察

（３）気仙沼市健康推進課長への避難所状況視察報告と被災者健康管理に関する意見交換

以下のそれぞれの活動の概要について報告する。

２．気仙沼小学校避難所における被災者の健康支援

気仙沼小学校は市中心部の高台に位置し、気仙沼港周辺で被災した約 120 名が体育館内に避難している。本チームはこの避難所における救護班として、被災者の健康管理を行っている。健康相談、感染予防、市販薬の配布、要医療被災者の医療チーム（気仙沼中学校避難所）や近隣の医療機関への紹介、精神的ケアが必要な被災者の心理チームへの紹介、等である。

また、毎日、近隣の気仙沼中学校避難所、市民会館避難所の医療チーム・健康支援チーム（PCAT、都道府県保健師など）との合同ミーティングを行って情報交換を行っている。期間中以下のような事項が検討された。

・避難所によって体重増加傾向のところと体重減少傾向のところがあり、量や内容の偏りが考えられる。日本栄養士会から献立の写真を撮るよう要請あり。

・咳が出る人が多く、ほこりのためと考えられる。暖かい日は換気を奨励するとともに、布団の下のほこりの掃除、布団の下にしいてある段ボールのカビに注意。肺炎も発生して

おり集団発生に注意する。
・毎週眼科医の巡回診療がある。避難所あるいは瓦礫処理で目にほこり・異物が多いが、以前より減ってきた。
・スタッフ各位に市健康推進課長との意見交換結果を報告。現場からの要望があればとりまとめて健康推進課にあげることを提案した。
・このグループとして気仙沼地区の小規模避難所をどのように巡回するか決まっておらず、今後考えることを提案した。
・感染症（下痢、上気道炎、発熱）の集団発生に注意することと、早めに予防することを確認。

支援チーム

避難所内部

避難所内救護班

自衛隊による炊き出し

３．気仙沼市内の小規模避難所の巡回

チームと共に気仙沼市内の小規模避難所を訪問し、健康支援と共に、健康管理上の問題点について視察した。

①松岩小学校避難所訪問
・ほとんどの木造住居が津波で流され、大きな被害があった地区である。避難者数は減少

傾向にあり現在約 40 人。旅館等への 2 次避難などで減少してきた。現在小学校の 5 つの教室に分かれて生活している。
・食事は現在もおにぎりとパンが中心（1 日 2 回）。栄養補助ドリンクの支給が時々あるが栄養の偏りが著しい。火の使える場所がなかったため、自炊不能だったが、1 週間前に自炊できるプレハブ施設が設置された。しかし住民全体で食事を作ることはしていない。野菜など食材の支援もない。一部の人が自分で追加の調理をしている。
・市の担当者が大きな避難所への統合を提案したが、2 次避難や仮設住宅を待つとして住民が受け入れていない。
②階上（はしかみ）地区訪問
・階上地区の小規模避難所には週 2 回（水、土）、看護協会看護師が巡回している。
・看護協会看護師とともに階上公民館、くるみ会館を巡回。階上公民館は、住民の当番制によるおかずの調理あり。野菜果物などが支援物資として届いており、めしは自衛隊の炊き出しが届くため栄養のバランスは確保されている。くるみ会館では自炊は可能だが少なく、炭水化物食が多い。

階上公民館の調理室

階上地区の被害

４．気仙沼市健康推進課長への報告と意見交換

気仙沼市健康推進課熊谷課長への避難所状況視察報告と被災者健康管理に関する意見交換を行った。課長からの現状に関する情報および当方からの報告・提案に分けて以下に示す。
①気仙沼市内避難所における健康管理の状況
・現在市内 1 次避難所における避難者数約 5000 人、避難所数は約 50 ヶ所であるが、減少傾向にある。徐々に２次避難（ホテルなど）、仮設住宅に移動が進んでいる。
・医療救護所は避難所のうち約 20 ヶ所にあったが、避難者数減少と医療機関再開に伴い、医療救護所も縮小傾向にある。
・医療スタッフと保健スタッフ（自治体からの保健師など）は各避難所で連携をお願いしている。

・介護に関しては市の介護担当課が管轄している。
・気仙沼中学校、総合体育館、階上中学校には市の保健師も駐在している。ほかの市の保健師は気仙沼市健康管理センターにおいて全体の統括をしている。
・本吉地区、唐桑地区（旧町）はそれぞれ総合支所が管轄しており任せている。
・医療スタッフ不在の小さな避難所も医療スタッフの巡回あり。
・避難所の保健対策としては、外部からの医療スタッフ・保健スタッフの活動、感染対策もあり、震災初期の感染症の集団発生などもなく乗り越えられた。
②被災者健康管理に関する意見交換・提案
・一部の小規模避難所で食事の偏りが大きい点を報告。健康を害する程度であれば、保健面からさらに強いアプローチが必要であることを提案した（避難所移動や野菜・食事配給など）。栄養士による標準メニューやできるだけバランスの良い弁当導入も検討するとのこと。
・小規模避難所への保健スタッフ巡回について、行政としてのシステマティックな管理が必要であることを提案。宮城県気仙沼保健所保健師などによる現状調査も進めているとのこと。
・医療機関再開が進んでいるため、医療班引き上げについて 5 月末に方向性を決めるとのこと。しかし、避難所が継続する限り保健サービスの継続は必要であることを確認。

５．おわりに

気仙沼市は津波による大きな被害があったところである。被災後 2 ヶ月を経過したが、多くの被災者が未だに 1 次避難所で生活しており、被災地区の復興には長期間を要すると考えられる。しかし、急性期の医療支援の縮小など、健康面での支援は新たな段階に進みつつある。今後、1 次避難所での長期の生活にともなう健康障害の予防や、2 次避難所・仮設住宅の被災者の健康管理、適切な食生活への支援、感染症や循環器疾患の予防などの対策を継続して考えてゆく必要がある。全国から、専門家による可能な支援の継続も必要であろう。